

会議録

会議の名称	第1回 清須市観光・産業きよす会議
開催日時	令和2年8月19日(水) 午前10時～午前11時35分
開催場所	清洲城 芸能の間
議題	1 開会 2 議題 清須市の観光・産業に係る将来像及び分科会での検討テーマ(案)について 3 閉会
会議資料	次第 委員名簿 配席表 資料1 中小事業者の稼ぐ力創生と稼ぐ力を高めるための観光・産業活性化プロジェクト(地方創生推進交付金充当事業)の全体概要 資料2 個別の地域課題に係る整理 資料3 清須市観光・産業活性化に係る将来像のイメージ及び分科会での検討テーマ(案) 資料4 検討スケジュール 参考資料① 清洲城入場者数の推移 参考資料② 令和元年度清洲城周辺にぎわい創出検討に係る市場調査における web 利用者アンケート結果の概要 参考資料③ 地域再生計画 参考資料④ 清須市観光ルートマップ
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
出席委員	千頭委員(座長)、山田委員、富板委員、川上委員、栗本委員
欠席委員	加藤委員、桂川委員
事務局	市民環境部 産業課 石田次長兼課長、梶浦課長補佐、横幕主査、原田主任
1 開会 (事務局)	それでは、定刻となりましたので、令和2年度 第1回清須市観光・産業き

よす会議を開催します。

私は議題に入るまでの間の進行を担当いたします清須市産業課の横幕と申します。

それでは、まずお手元の配付資料の確認をさせていただきます。

本日は、10種類の資料を配付させていただきました。

上から順番に次第、名簿、配席表、以下A3判のもので、資料1から資料4、参考資料①から③まで、及び観光ルートマップの計10種類です。

不足等がありましたら、お持ちしますので挙手にてお知らせください。

それでは、次第にしたがって進行させていただきます。

開会にあたりまして、清須市市民環境部長の栗本より、一言ごあいさつを申し上げます。

(部長挨拶)

それでは、議題に入る前にお手元の名簿にしたがいまして、委員の皆様をご紹介させていただきます。

最初に本日のご欠席のご案内を申し上げます。

本市観光協会を代表して加藤康夫会長に、委員交通事業者の代表といたしまして、名古屋鉄道須ヶ口駅長の桂川和彦様をお願いしておりますが、本日はご両名ともご欠席との連絡をいただいております。

つづきまして、有識者の方といたしまして、日本福祉大学国際福祉開発学部教授の千頭聡先生です。先生は地域計画等をご専門とされ、これまでも多くの公的会議で委員をお勤めになり、地域振興に多大なご貢献をされています。当会議では座長をおつとめいただきます。

つづいて、本市商工会の代表といたしまして、商工会副会長の山田宗宏様です。山田様は名古屋市や東京を拠点とする弘春堂様の代表取締役社長でいらっしゃいまして、様々なデザインコンテンツによる販促ツールの開発やブランディングに取り組まれています。

つづいて、金融機関の代表といたしまして、中日信用金庫の理事業務推進部長でいらっしゃいます冨板淳也様です。中日信用金庫様は、本市を発祥の地とする地域密着型の金融機関として、本地域の経済活動に多大なご貢献をいただいています。

つづいて、株式会社 JTB 名古屋事業部 広域交流事業部 営業担当部長の川上様です。JTB 様は国内の旅行業界最大手であり、川上様ご自身もこれまでに多くの公的会議で委員をお勤めです。本会議には、オブザーバーという立場でご参画いただきます。

最後に行政を代表しまして、市民環境部長の栗本も参画させていただきます。以上5名の委員の方々の出席により、会議を進めていただきます。

2 議題

(事務局)

それでは、次第の「2 議題」に入りたいと思います。

ここからは座長の千頭先生に進行をお願いしたいと思います。

千頭先生、よろしくお願いします。

(千頭座長)

日本福祉大学の千頭です。ここからは、私の方で議事を進行させていただきますので、よろしくお願いします。ざっくばらんにお話し合いができればと思います。

それでは、まずは配付資料に基づき、事務局から一括してご説明をお願いします。

(事務局)

[資料の要点を一括説明]

(千頭座長)

ありがとうございました。それでは、委員の皆様からご意見やご質問をいた

だきたいと思いますが、2巡にわたってご発言をお願いする予定です。

まず1巡目として、「清須市の観光・産業に係る将来像」について、2巡目では、「分科会での検討テーマ」についてご発言をお願いします。

それでは、1巡目「清須市の観光・産業に係る将来像」について、山田委員からご意見ををお願いします。

(山田委員)

まず、どこから集客するのかを検討することが重要だと考えます。

例えば、首都圏からの来訪であれば、名駅や栄でさえ魅力的には映りません。それであれば東京で十分だとなってしまいますからです。

清須市の将来像を考える上で、県外の方を引き付ける魅力は何かを考えた上で、市内の周遊策を立てていくと良いのではないのでしょうか。

私見ですが、県外では「名古屋めし」が非常に高い評価を得ていますので、「名古屋めし」が食べられるお店を何店舗か入った集客施設をつくり、「清須こそが名古屋だ」というイメージを作れると強みになると思います。

一言に将来像といっても曖昧な部分が多いため、具体策を立てていく必要があります。

(千頭座長)

清須市商工会では、市外誘客の取り組みに積極的な参画は望めるのでしょうか。

(山田委員)

商工会で牽引していくのは難しいので、地域柄、行政のリーダーシップが不可欠です。また、経済的に恵まれているからか、ハングリー精神が希薄で控えめな方が多い地域性だと感じています。

また、名古屋市と比較した場合の清須市の強みははっきりさせるべきです。清須市が名古屋より上の要素を持っている必要があるのではないのでしょうか？

例えば、若い方からは「清須は住むのには最適な街だが、働くのは名古屋」というご意見があります。裏を返せば、名古屋へのアクセスが良くて、土地が安いことは強みになります。

一つのアイデアとして、例えば鉄道駅も JR・名鉄と充実しているため、駅前に飲める場所があれば、帰宅途中の方が利用してもらえないでしょうか。

(千頭座長)

ありがとうございます。

富板委員、いかがでしょうか。

(富板委員)

私は当金庫に就職をして初めて配属されたのが、清須市内の新川支店でした。以来 30 年間こちらの地域に関わっています。

その中で、地域の転換点だったと思うのは、平成 12 年の東海豪雨です。それまで美濃路にも商店が残っていたところもありましたが、を境に町の雰囲気が変わってしまった印象を受けました。

例えば、商店街のお店も東海豪雨や世代交代の影響で廃業されたところもあって、街の景色を大きく変えたのだと思います。

清須市は、平成 17 年に市町村合併で誕生してから 15 年が経ち、金融機関の立場からも事業者数が減少していることに危機感があります。

名古屋市と近いので、通勤圏の名古屋へ次世代の若者が出て行ってしまうことも懸念されます。

将来像には違和感はありません。事業者が減少する中でも地元の小さな商工業者に携わる皆さんが潤う姿を目指すことは、私どもの願いでもあります。

当金庫の西枇杷島支店の道向かいには、ココ壺番屋さんの 1 号店があって、予約制の記念館も併設されています。こうした地元の方には知られていることでも、市外の方には意外と知られていなかったりします。

清須市は歴史資源に恵まれているため、歴史を語ることのできる街です。ストーリー化によってコンテンツを開発していくことができます。

(千頭座長)

金融機関として、商店街などの皆さんとの付き合いがある中で、事業者が頑張ろうと思う理由は何でしょうか？

(富板委員)

地元をよくしたいという思いだと思います。

地元の中小事業者の方は、名古屋に負けないという気持ちと、名古屋経済圏の一部だという認識の両方を持っています。

地元を何とかしたいという意欲旺盛な方が多い地域なので、地元で作ったものが、まずは地元で売れる仕組みを作り、そこから地域資源として市外の方に広まっていく流れを目指していきたいと思います。

(千頭座長)

ありがとうございます。

川上委員、いかがでしょうか。

(川上委員)

中央リニア、アジア大会など、名古屋は今後イベントやインフラを通してチャンスが多くあります。その機に清須市としてどう誘客していくのかが重要だと考えます。

清須市の将来像としては清須の産業をいかした観光まちづくりも検討していきたいところです。

また、様々な地域と比較して、清須の歴史遺産は強みとなる部分です。

清洲城の他にも美濃路などの歴史資源を活用した観光を構築していきたいと思います。

合併を経て、旧市町のそれぞれの地域性を乗り越え、シビックプライドを醸成することも重要です。

(千頭座長)

ありがとうございます。

それでは委員の皆さんから頂いたご意見に対して、少し違う観点も踏まえて発言します。

まず、山田委員がおっしゃっていた人をどこから呼ぶかについてです。

観光については、マス（大勢）で訪れるバス旅行等や、少人数で訪れる友達や家族との旅行の2パターンの視点を持つことが重要です。

少人数の観光については、従来の観光の形と大きく異なり、現在では例えば街のパン屋さんを訪れるなどがあります。

今は高級食パンが一斤 1,000 円で売れる時代です。おいしいパン屋さんは県外からも来訪があります。

口コミなどで広まった「良いもの」をめぐって、市外からも訪問されるようなアプローチをぜひ視野に入れて議論をしていきたいと考えます。

マスの観光については、バス観光等で清洲城などの観光施設へ来ていただくのはもちろんですが、従来とは異なる良さを検討していくことも重要です。

例えばですが、英語版のトリップアドバイザーを読んでいると、「日本の城をいくつも周った中で、清洲城に最も高い評価をつけた」という外国人観光客のクチコミがありました。

私たちの既存のイメージでは、良いお城とは「本物の天守閣が残っていて、伝統的な建物」のことですが、外国人観光客からすると、もっと違った清洲城の良さがあるということです。

その外国人観光客が「清洲城を一番」だといった理由は何か？そこを伸ばしていく必要があります。

また、川上委員のおっしゃっていたシビックプライドについてですが、市民の皆さんがどれだけ清須のことを誇りに思っているのかも重要で、例えば東京の方に清須を紹介する際に「名古屋市の隣です。」ではなく、「清須市です。」という説明をするかどうか表れたりします。

また、参考資料2のアンケートをどう読むかは注意が必要です。

清洲城以外の資源に注目されていない中でアンケートを取ると、相対的に清洲城が目立つ結果になります。

施策を打ち出す上では、清洲城以外の資源にも注目すると良いと考えます。

(千頭座長)

それでは、2巡目「分科会での検討テーマ」について、再び山田委員、いかがでしょうか。

(山田委員)

清須にある有力事業者の洗い出しが有効だと考えます。

また、KPIについては、目標設定が少し甘いのではないかと思います。

行政の本気度が把握できないでいるところです。

(千頭座長)

総合戦略へ掲載したKPIとも関わりがあるものだと思います。

この場合、行政の目標は達成できそうな水準となることが多いです。

資料にも課題として掲載されていたイベントに関する地元事業者との関わり方について、商工会として何か所感はありますか。

(山田委員)

屋台での出店は難しいですが、これだけの集客イベントは魅力的です。何か関わることがあるといいと思います。

(富板委員)

清須の街には、清洲城や朝日遺跡ミュージアムなどの歴史に関するコンテンツがあります。

アプリを利用した歴史コンテンツの体験モノを検討できるといいと思います。例えば、信長ゆかりの場所を訪れて、アプリを利用するとその由来が学べるようなものなどです。

清須はCoCo 壺番屋のカレー1号店がありますが、そこへ併設されている記念館があります。こうしたことは地元の人は知っていますが、市外の方は知らない方も多いと思います。

地元の方は市内の地域資源をよく知っているので、アプリやAR等を活用して豊富な地域資源の発信・学習ができるコンテンツがあると面白いのではないのでしょうか。

(千頭座長)

異業種交流会に需要はありますか？

(富板委員)

需要はあります。ウィズ・コロナ、アフター・コロナを見据えて、事業者は自社だけでなく、マッチングやコラボレーションで乗り切っていく必要もありますので、異業種交流会は重要です。

行政で異業種交流の機会を用意してもらえると、事業者にとって非常にありがたいことだと思います。

(川上委員)

清洲城周辺にキンビール工場や朝日遺跡ミュージアムがあり、観光のコアを形成します。美濃街道をもっと観光に活かせるといいでしょう。

その一環として、例えばレンタサイクルを活用できないでしょうか。

また、清洲城などの観光ガイドのボランティアは、有料でも成立すると思

ます。清須の観光を担う観光人材を育成することも踏まえて有料で実施することも検討していただきたいところです。

(千頭座長)

分科会での検討テーマについてですが、構成メンバーについては、やはり女性の意見を取り入れたいところです。

お買い物の決定権が誰にあるのかを考えると、家庭の中では、女性が握っていることが多いので、どんなものだったら買うのか、どんなところへ行きたいのかも女性の視点が欠かせません。

分科会への参加が難しければ、意見だけでも取り入れる仕組みが必要だと思います。

川上委員のおっしゃっていた美濃街道に関しては、お隣の稲沢市も力を入れている観光資源なので、連携の余地があるのではないのでしょうか。

観光施策は行政区画で仕切るのではなく、広域的な視点があるとよいかと思います。

ところで、資料2には清洲城の入場者数が下降傾向にあると出ていますが、現状は行政の直営だと思います。今後の管理・運営について、検討の方向性などはありますか。

(事務局)

清洲城の管理・運営について、ご説明します。

平成27年度以降、集客実績が減少し続けていますが、その主な原因は、行政直営では、予算の範囲内で、安全に管理することで手一杯になりがちで、誘客ノウハウの研究や蓄積が難しく、そもそも、観光まちづくりのビジョンがないこともあげられます。

そこで、考えられるのは、指定管理者制度への移行です。

実際に既に本市の公共施設で実績があり、具体例をあげますと、市立図書館・美術館です。清洲城から五条川を北上した位置にあり、ある意味で清洲城よりもアクセスの良くない場所にあるにも関わらず、来場者数が増えている状況です。

(千頭座長)

指定管理者制度を活用する理由については、コストの削減だけでなく、目的を明確にして検討いただく必要があります。コストカットを主眼とした制度活用では、民間活力をうまく引き出せず、悪循環に陥る恐れもありますので、

注意していただきたいと思います。

イベントについても、課題があるというご認識ですが、課題に対応した見直しはされるのですか。

(事務局)

ご回答します。

市町村合併で清須市が誕生して以来、4つの旧町単位で、それぞれのお祭りを残してきましたが、合併して15年が経ち、そうした祭り開催のあり方は、市の一体感の醸成や、経済効果も踏まえつつ、再検討する時期に来ていると思っています。

(千頭座長)

事業者向けに市が補助金を出す施策はよくありますが、補助金を出すだけでは地域の事業者は元気になりません。補助金以外で、事業者の意欲喚起に向けた考えはありますか。

(事務局)

事業者支援について、アイデアベースでは、美濃街道の町屋を景観保存の観点から2箇所管理しており、そうした施設を意欲ある事業者の方にお貸しするなどが考えられます。

また、創業支援事業も実施しており、市内の創業数の増加に努めています。

そのほかに、新規の取組として、異業種の事業者が交流する場となるイベントを検討しています。

(千頭座長)

最初は夢を大きく持つことが、事業の熱源となるので、夢を語りつつ、事業の進捗には着実なステップを意識することが大切。

事務局のアイデアにも出た美濃街道の町屋の活用は、若い女性から意見をもらうと実効性がある打ち手のヒントが得られるかもしれません。

それでは、以上で議題を終了しましたので、事務局へお戻しします。

3 閉会

(事務局)

ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、令和2年度 第1

回 清須市観光・産業きよす会議を終了いたします。

第2回の会議は、年明け2月頃の開催を予定しておりますので、よろしくお願いたします。

本日は、長時間大変おつかれさまでした。

これにて閉会させていただきます。

以上